

九州・沖縄の大学 収入高ランキング 九州大学がトップ

2期連続赤字の学校は約3割にのぼる

九州・沖縄地区 大学収入高ランキング(2024 年度)



本件照会先

秋山 進 (調査担当)
帝国データバンク
福岡支店情報部
092-738-7779(直通)
tdb.fukuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/03/02

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2024 年度の九州・沖縄地区大学収入高ランキングでは、九州大学が 1,411 億 4,200 万円
で首位となり、福岡大学、長崎大学が続いた。医科系・総合大学が上位を占め、研究費や附属病
院収入が収入規模を左右する構造が明確に表れた。少子化や病院収支の悪化など経営環境が
厳しさを増す中、各大学の財務基盤強化が重要性を増している。

帝国データバンク福岡支店は、企業概要データベース「COSMOS2」(約 150 万社収録)から、九州・沖縄地区に本部を置く大学
(短大含む)を75校抽出。2024 年度(2024年 4 月~2025年 3 月期)の収入高をランキング形式でまとめた(収入高には一部
推定を含む)。本調査は今回が初めて。

2024 年度の大学収入高ランキング 九州大学がトップ

2024 年度の九州・沖縄地区大学収入高ランキングでは、九州大学が 1,411 億 4200 万円で九州・沖縄地区の75校で首位となり、同地区の大学群において圧倒的な収入規模を示した。旧・帝国大学として創立され、長年の実績とブランド力もあって地元での地名度は高く、安定した経営基盤を確立できている。通常の各学科以外に機械航空工学科や航空宇宙工学といった特殊な研究を行っていることから九州以外からの入学希望者も多く、一定の学生数を維持できている。収益確保にも繋がっている。前年度比でも増加し、研究費・外部資金の獲得力に加え、国内最大級の附属病院を持つ総合大学としての強固な基盤が数字に反映されている。

2 位の福岡大学は 825 億 1400 万円で、私立大学としては地域最大規模を誇る。大規模な学生数に支えられた安定的な授業料収入と、医学部附属病院を中心とした医療収入が経営の柱となっている。同大学は福岡都市圏という人口集積地を背景に安定した入学者確保が可能で、全国的に私立大学の約 59% が定員割れに陥る中でも堅調な基盤を維持しているとみられる。

3 位の長崎大学(672億 1,100 万円)は、長崎県内で唯一の総合大学で、医科系学部と附属病院の比重が極めて高い。旧制の長崎医科大学や長崎経済専門学校などを包括した経緯から医学部が強く、特に、医学部の熱帯病(風土病)の研究は、世界トップレベルの研究機関と評価されている。

熊本大学(659億 4,200 万円)、久留米大学(611億 2,900 万円)も、いずれも医学部や附属病院の存在が収入規模の大きな要因となっており、医療系機能を持つ大学群が上位を占める結果となった。

以上のように、大学収入のトップ層は研究力と医療機能を兼ね備えた総合大学が中心である一方、これらの大学でも少子化や医療費構造の変化など、外部環境の影響を避けることは難しく、収益基盤の強化と経営管理の高度化が共通課題となっている。

大学収入高総合ランキング 上位 15 校(2024 年度)

順位	学校名	所在地	決算月	収入高 (百万円)	前年度比収入高 伸び率
1	国立大学法人九州大学	福岡市西区	3	141,142	2.6%
2	学校法人 福岡大学	福岡市城南区	3	82,514	▲0.3%
3	国立大学法人長崎大学	長崎県長崎市	3	67,211	4.4%
4	国立大学法人熊本大学	熊本市中央区	3	65,942	2.2%
5	学校法人 久留米大学	福岡県久留米市	3	61,129	▲0.3%
6	国立大学法人鹿児島大学	鹿児島県鹿児島	3	55,878	0.1%
7	国立大学法人琉球大学	沖縄県中頭郡	3	45,441	7.5%
8	国立大学法人佐賀大学	佐賀県佐賀市	3	42,686	▲3.3%
9	国立大学法人宮崎大学	宮崎県宮崎市	3	41,894	1.8%
10	学校法人 産業医科大学	北九州市八幡西区	3	41,440	4.7%
11	国立大学法人大分大学	大分県大分市	3	40,940	1.5%
12	学校法人 沖縄科学技術大学院大学学園	沖縄県国頭郡	3	22,342	0.8%
13	学校法人 中村産業学園	福岡市東区松	3	15,041	2.5%
14	学校法人 西南学院	福岡市早良区	3	13,469	2.5%
15	国立大学法人九州工業大学	福岡県北九州	3	12,640	4.8%

国公立大学、九州大学が圧倒的首位

九州・沖縄地区の国立大学では、2024年度も九州大学が収入高 1,411億4,200万円で首位となり、研究費の獲得力や大型附属病院の収入規模を背景に、同地域の中核大学として圧倒的な存在感を示した。2位の長崎大学は672億1,100万円で、医学部と附属病院の比率が高く、地域医療と研究活動が財源の中心となっている。3位の熊本大学は659億4,100万円で、同じく医療系部門が収入の大部分を占める構造を持つ。4位には鹿児島大学(558億7,800万円)、5位には琉球大学(454億1,100万円)が続く。

【国公立大学】収入高ランキング 上位5校舎(2024年度)

順位	学校名	所在地	決算月	収入高 (百万円)	前年度比収入高 伸び率
1	国立大学法人九州大学	福岡市西区	3	141,142	2.6%
2	国立大学法人長崎大学	長崎県長崎市	3	67,211	4.4%
3	国立大学法人熊本大学	熊本市中央区	3	65,942	2.2%
4	国立大学法人鹿児島大学	鹿児島県鹿児島市	3	55,878	0.1%
5	国立大学法人琉球大学	沖縄県中頭郡	3	45,441	7.5%

私立大学部門 福岡大学が強さを発揮

九州・沖縄地区の私立大学では、福岡大学が収入高 825億1,400万円でトップとなり、地域最大規模の総合私立大学として安定した収益基盤を維持している。大規模学生数による授業料収入と医学部附属病院の医療収入が収入全体を支えており、同地区における私立大学の中心的存在となっている。2位には久留米大学(611億2,900万円)、3位には産業医科大学(414億4,100万円)が続く。いずれも医学部・附属病院を擁し、診療収入が財務規模を大きく支えている点が共通している。久留米大学は地域医療を担う総合力が強みであり、産業医科大学は産業保健分野に特化した教育・研究体制を背景に独自の財源構造を形成している。4位には九州産業大学を運営する中村産業学園、5位には西南学院大学を運営する西南学院がランクインし、都市型の大学が上位に並んだ。

【私立大学】収入高ランキング 上位5校(2024年度)

順位	学校名	所在地	決算期	収入高 (百万円)	前年度比収入高 伸び率
1	学校法人 福岡大学	福岡市城南区	3	82,514	▲0.3%
2	学校法人 久留米大学	福岡県久留米市	3	61,129	▲0.3%
3	学校法人 産業医科大学	北九州市八幡西区	3	41,440	4.7%
4	学校法人 中村産業学園	福岡市東区	3	15,041	2.5%
5	学校法人 西南学院	福岡市早良区	3	13,469	2.5%

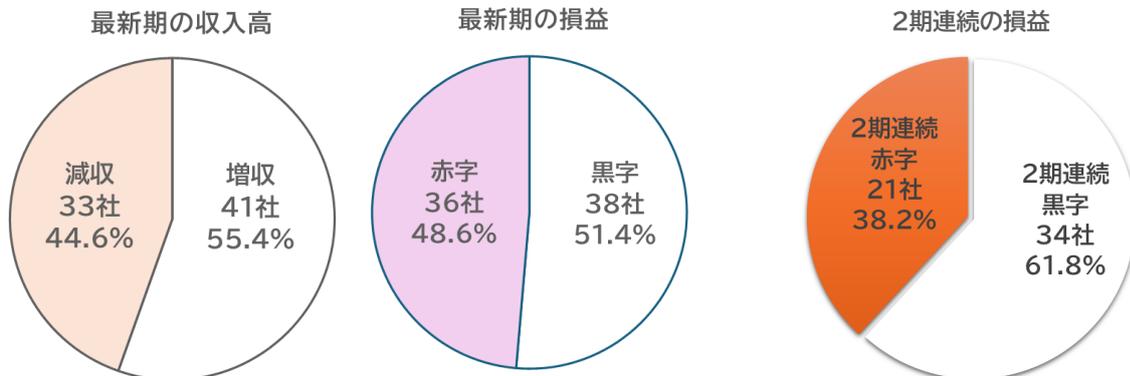
直近期の黒字比率は約5割にとどまる

直近期の損益は、黒字は51.4%、赤字は48.6%と拮抗し、エリア全体で収支の引き締めが続く。とりわけ大学病院を抱える大学では、人件費や医療材料費の上昇が響き、患者数の増加が必ずしも損益改善に直結しない構造が浮き彫りとなった。また、2期連続の黒字は45.9%にとどまり、持続的な黒字化のハードルが高い。一方で、2期連続の赤字は28.4%と、一部の法人の赤字体質の常態化が示唆された。国公立は運営費交付金の逡減と病院収支の悪化が重荷となり、私立は定員未達による授業料収入の目減りがボトルネックとなっている。病院部門の原価管理と外部資金の多層化、定員の適正化と学部ポートフォリオ再設計が、次期以降の損益改善に不可欠となる。さらに最新期の収入動向を見ると、収入高が増収となった大学が41校(構成比55.4%)に対し、減収となった大学が33校(同44.6%)であり、依然として収入環境が安定しない状況にある。

このように地域内の大学のうち黒字を維持しているのは約半数にとどまり、多くの大学が赤字圧力の中で事業運営を続けている。国立大学では、運営費交付金の縮減や物価上昇、人件費増加に加えて、附属病院の赤字化が深刻な問題として横たわっている。全国では国立大学病院の約8割が赤字見通しとされ、その累積赤字は2025年度に約330億円規模に達するとの報道もある。病院部門は教育・研究と密接に結びつく一方、高度医療のコスト構造が重く、患者数の増加が経営改善に直接つながらないという構造的な矛盾を抱えている。私立大学においても、定員割れによる授業料収入の減少が財務悪化の主因であり、59%の私立大学が定員を満たしていない現状では、黒字維持が困難な大学が増加している。政府は改善策として統廃合を支援し、一部大学の公立化や学部移管など柔軟な再編を求めているが、地域によっては公立化が自治体財政の負担となるリスクも指摘されている。

また、学生側の生活困窮も深刻で、経済的理由による進学断念や奨学金依存が高まることで大学経営に影響を及ぼす側面もある。こうした複合要因が重なり、黒字大学と赤字大学の差は今後ますます拡大する可能性がある。

収入高・損益推移



※1社は収入高が横ばい ※損益は判明している企業のみで集計

まとめ

2024年度の九州・沖縄地区「大学収入高総合ランキング」では、九州大学が1,411億4,200万円で75校のうちで首位、私立では福岡大学が最大規模となり、長崎大学、熊本大学、久留米大学が続いた。上位は総じて医科系・総合大学で、研究費・外部資金と附属病院の診療収入が規模を左右する構造が鮮明となった。



国公立大学部門は、運営費交付金の縮減、物価・人件費上昇、大学病院の収支悪化が重荷となり、「規模＝安定」には直結しない。地域中核の九州大学を含め、病院部門の収支は診療報酬や人件費動向に大きく左右され、固定費の厚い体質から規模の経済が働きにくい。

私立大学部門では、福岡都市圏の安定需要を背景に福岡大学の収益基盤が相対的に強い一方、全国で約59%が定員割れに直面し、授業料依存度の高さが収益を揺らす。久留米大学は病院収入を軸に規模を確保し、産業医科大学は産業保健の専門性で差別化するが、医療系の高コスト構造という共通課題は避け難い状況だ。

損益面では、直近期の黒字は概ね約5割にとどまり、2期連続での黒字維持のハードルも高い。国立大学病院は全国で約8割が赤字見通しとされ、同地区でも病院収支が全体損益のボラティリティを高める主因となっている。医療材料費やエネルギー費、人件費の上振れが継続し、患者数の増加が必ずしも損益改善に直結しにくい構造的制約が背景にある。さらに最新期の収入動向を見ると、収入高が増収となった大学が41校(構成比55.4%)にとどまった。

大学業界を取り巻く環境は、少子化による受験者プールの縮小、診療報酬制度・医療費動向、研究費の競争激化など逆風が続く一方、産学連携・寄附・外部資金の多層化や、デジタル投資と人材獲得の両立は収益源の多角化に資する。政策面では、連携・統合や公立化を含む再編の選択肢も現実味を帯びつつあるが、自治体財政への負担など慎重な設計が求められる。

中期的に優位を保つには、病院部門の原価管理、研究・医療・教育の資金循環強化、入学定員の適正化と学部ポートフォリオ再設計、さらに他大学・自治体との戦略的連携や統合の機動的実行が不可欠となる。加えて、国際共同研究の拡張や留学生採用の戦略的強化により外部資金・授業料の新しい流入経路を確保し、地域医療・地域産業との協働を深化させることで、研究成果の社会実装と収益化を同時に図ることが肝要と考えられる。

総じて、九州・沖縄の大学は、研究費・寄附・産学連携の外部資金パイプを強めつつ、附属病院の収支改善や教育サービスの提供効率化、デジタル投資と人材獲得の両立を図る必要がある。上位大学の収入高はなお堅調であるものの、その裏側では病院部門のコスト圧力や、少子化による受験者プール縮小が着実に進む。ランキングの序列は現状の体力差を映す一方で、今後は資源配分と事業ポートフォリオの再設計、学部・学科の再編、他大学との戦略的連携といった経営判断が、中長期的な優位の維持を左右するであろう。

収入高ランキング(2024年度)

順位	学校名	所在地	決算期	収入高 (百万円)	収入高 伸び率
1	国立大学法人九州大学	福岡市西区	3	141,142	2.6%
2	学校法人 福岡大学	福岡市城南区	3	82,514	▲0.3%
3	国立大学法人長崎大学	長崎県長崎市	3	67,211	4.4%
4	国立大学法人熊本大学	熊本市中央区	3	65,942	2.2%
5	学校法人 久留米大学	福岡県久留米市	3	61,129	▲0.3%
6	国立大学法人鹿児島大学	鹿児島県鹿児島市	3	55,878	0.1%
7	国立大学法人琉球大学	沖縄県中頭郡	3	45,441	7.5%
8	国立大学法人佐賀大学	佐賀県佐賀市	3	42,686	▲3.3%
9	国立大学法人宮崎大学	宮崎県宮崎市	3	41,894	1.8%
10	学校法人 産業医科大学	北九州市八幡西区	3	41,440	4.7%
11	国立大学法人大分大学	大分県大分市	3	40,940	1.5%
12	学校法人 沖縄科学技術大学院大学学園	沖縄県国頭郡	3	22,342	0.8%
13	学校法人 中村産業学園	福岡市東区	3	15,041	2.5%
14	学校法人 西南学院	福岡市早良区	3	13,469	2.5%
15	国立大学法人九州工業大学	北九州市戸畑区	3	12,640	4.8%
16	学校法人 都築学園	福岡市南区	3	10,525	0.8%
17	学校法人 福岡工業大学	福岡市東区	3	9,644	3.1%
18	学校法人 中村学園	福岡市城南区	3	8,019	▲0.8%
19	公立大学法人北九州市立大学	北九州市小倉南区	3	7,843	5.6%
20	学校法人 福原学園	北九州市八幡西区	3	7,407	0.3%
21	学校法人 都築育英学園	福岡県太宰府市	3	7,385	8.5%
22	学校法人 福岡学園	福岡市早良区	3	7,171	7.1%
23	学校法人 君が淵学園	熊本市西区	3	7,030	▲1.6%
24	学校法人 熊本学園	熊本市中央区	3	6,736	0.0%
25	学校法人 九州文化学園	長崎県佐世保市	3	5,934	0.2%
26	学校法人 津曲学園	鹿児島県鹿児島市	3	5,875	0.2%
27	学校法人 沖縄国際大学	沖縄県宜野湾市	3	5,630	1.1%
28	国立大学法人福岡教育大学	福岡県宗像市	3	5,628	7.1%
29	公立大学法人名桜大学	沖縄県名護市	3	5,055	24.2%
30	学校法人 別府大学	大分県別府市	3	4,931	▲2.6%
31	学校法人 福岡女学院	福岡市南区	3	4,510	▲1.7%
32	学校法人 筑紫女学園	福岡県太宰府市	3	4,386	▲12.9%
33	学校法人 文理学園	大分県大分市	3	4,293	▲9.1%
34	長崎県公立大学法人	長崎県佐世保市	3	4,177	▲1.5%
35	学校法人 永原学園	佐賀県佐賀市	3	3,906	1.4%
36	学校法人 九州国際大学	北九州市八幡東区	3	3,830	▲1.1%
37	公立大学法人九州歯科大学	北九州市小倉北区	3	3,577	▲1.4%
38	学校法人 久留米工業大学	福岡県久留米市	3	3,528	▲5.2%
39	学校法人 志学館学園	鹿児島県鹿児島市	3	3,426	▲2.5%
40	学校法人 純真学園	福岡市南区	3	3,311	▲9.9%
41	学校法人 都築教育学園	鹿児島県霧島市	3	3,278	0.5%
42	学校法人 東筑紫学園	北九州市小倉北区	3	3,202	▲1.2%
43	公立大学法人熊本県立大学	熊本市東区	3	2,992	1.1%
44	学校法人 銀杏学園	熊本市北区	3	2,799	4.0%
45	学校法人 沖縄大学	沖縄県那覇市	3	2,746	▲0.9%
46	学校法人 西南女学院	北九州市小倉北区	3	2,439	▲2.2%
47	学校法人 九州ルーテル学院	熊本市中央区	3	2,353	1.9%
48	学校法人 大淀学園	宮崎県宮崎市	3	2,345	1.2%
49	学校法人 西日本工業学園	北九州市小倉北区	3	2,327	▲6.3%
50	国立大学法人鹿児島体育大学	鹿児島県鹿屋市	3	2,259	5.1%
51	学校法人 純心女子学園	長崎県長崎市	3	2,198	▲8.6%
52	学校法人 尚綱学園	熊本市中央区	3	2,198	▲0.7%
53	学校法人 鹿児島純心女子学園	鹿児島県鹿児島市	3	2,116	▲0.2%
54	公立大学法人福岡女子大学	福岡市東区	3	2,095	▲0.8%
55	学校法人 長崎総合科学大学	長崎県長崎市	3	1,984	3.9%
56	公立大学法人福岡県立大学	福岡県田川市	3	1,978	▲0.6%
57	学校法人 活水学院	長崎県長崎市	3	1,880	▲3.5%
58	学校法人 熊本城北学園	熊本県玉名市	3	1,870	0.7%
59	公立大学法人沖縄県立芸術大学	沖縄県那覇市	3	1,770	1.2%
60	学校法人 山内学園	福岡市南区	3	1,719	▲1.5%
61	学校法人 南九州学園	宮崎県宮崎市	3	1,547	▲4.0%
62	学校法人 清部学園	大分県別府市	3	1,446	3.4%
63	学校法人 長崎学院	長崎県長崎市	3	1,241	▲2.7%
64	公立大学法人宮崎県立看護大学	宮崎県宮崎市	3	1,238	2.1%
65	公立大学法人宮崎公立大学	宮崎県宮崎市	3	1,159	▲2.0%
66	学校法人 西日本短期大学	福岡市中央区	3	1,099	6.3%
67	公立大学法人大分県立芸術文化短期大学	大分県大分市	3	1,047	3.4%
68	公立大学法人大分県立看護科学大学	大分県大分市	3	975	2.5%
69	学校法人 鶴鳴学園	長崎県長崎市	3	951	11.3%
70	学校法人 沖縄キリスト教学院	沖縄県中頭郡	3	794	11.5%
71	学校法人 聖マリア学院	福岡県久留米市	3	776	▲22.8%
72	学校法人 麻生教育学園	福岡市博多区	3	659	6.5%
73	学校法人 九州学園	福岡県太宰府市	3	627	▲10.7%
74	学校法人 嘉数女子学園	沖縄県島尻郡	3	595	▲7.6%
75	学校法人 御船学園	熊本県上益城郡	3	387	▲12.4%